おおくまから始まる　明るい未来
大熊ふるるん電力株式会社
OOKUMARURURUNDENRYOKU.,LTD

概要説明資料

「大熊るるるん電力株式会社」社名の由来

る･る･る　大熊

ゼロカーボンと大熊町の復興の好循環

創る

地域資源を活用した新しいまち

再生可能エネルギーの最大限導入

巡る

エネルギーと経済の地域内循環

地産地消システムの構築
快適で省エネなライフスタイル

贈る

持続可能なふるさとを将来世代へ

ゼロカーボンを源泉としたまちづくり
官民一体の推進体制

豊かな森里川海との共生

大熊町の復興（ローカルSDGsの達成・地域循環共生圏の形成）

手触り感のある「地産地消」を目指して

・大熊ररररん電力を立ち上げて、町内再エネを調達し、住民・事業者へ供給する

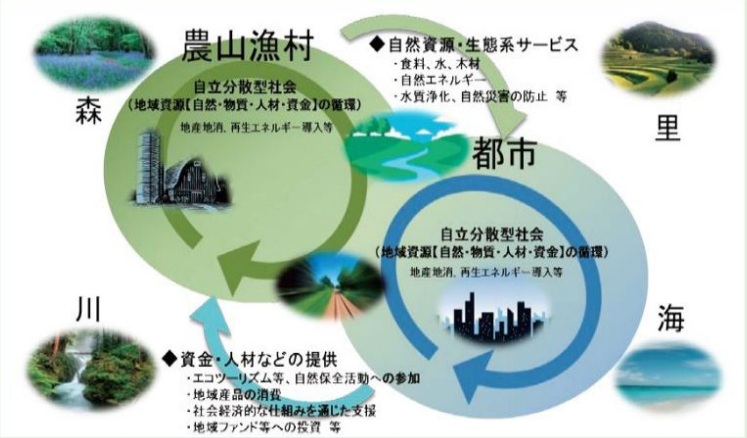
・町内で生まれる再エネと町内への供給によって、エネルギーの地産地消を達成する

・将来的には、地産外商も視野に入れる

・単にエネルギーを享受するだけの受け手から、
自分で創って使う、融通しあうという手触り感のある地産地消の形への転換により、
持続的で主体的な地域づくりの担い手を育てていくことに繋がると考えている

エスディージーズ
SDGs（Sustainable Development Goals）
2015年の国連サミットで掲げられた持続可能な開発目標です。
「誰一人取り残さない」をテーマとして、「貧困をなくそう」や「気候変動に具体的な対策を」といった17のゴールが設定されています。

地域循環共生圏（ローカルSDGs）
・国が推進する地域版のSDGs（ローカルSDGs）です。
・美しい自然景観等の地域資源の活用と、地域間連携を通じて、自立・分散型の社会を目指します。

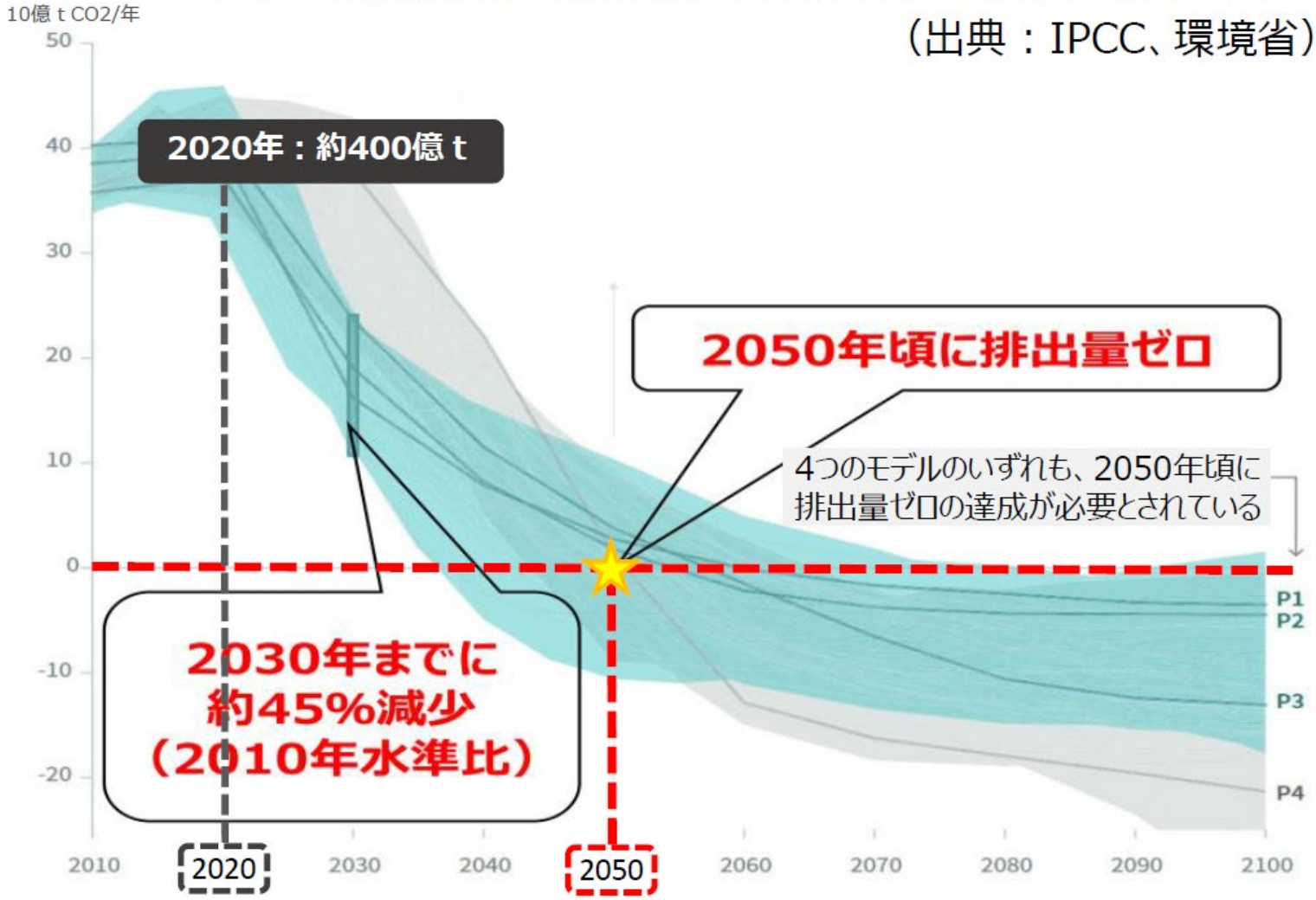


「1.5℃特別報告書」：2030年までに45%のCO2減少が目標

地球がどこまで気温上昇に耐え、人類への甚大な影響を避けられるか研究した結果

1.5℃目標を達成するための世界全体のCO2排出量のモデル

（出典：IPCC、環境省）

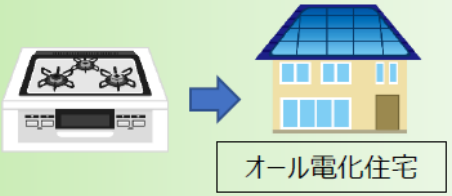


ゼロカーボンに向けた基本戦略　～3つのステップ～

出典：「大熊町ゼロカーボンビジョン」
https://www.town.okuma.fukushima.jp/uploaded/attachment/6502.pdf

STEP1

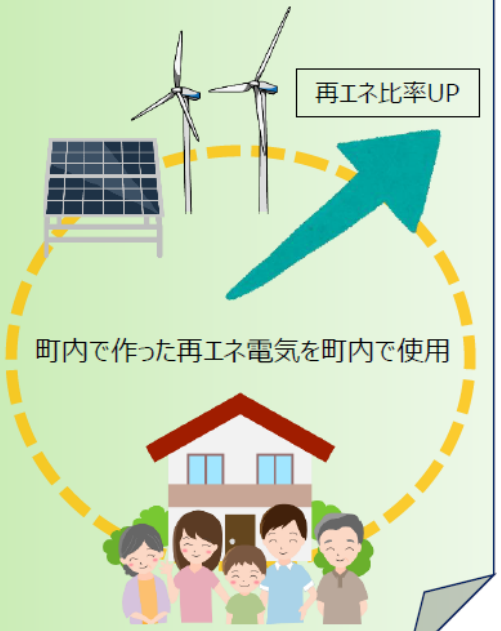
エネルギー消費量を減らすとともに、電化を進める



節エネとエネルギー利用の転換

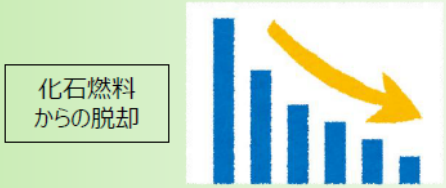
STEP2

再生可能エネルギー発電を増やし、その<u>再エネ電気を町内に供給</u>する



STEP3

<u>化石燃料の使用量が減少</u>し、CO2の削減が進む



大熊るるるん電力としてのゼロカーボンに向けたシナリオ

出典：「大熊町ゼロカーボンビジョン」
https://www.town.okuma.fukushima.jp/uploaded/attachment/6502.pdf

シナリオ	基本事項	シナリオの概要
A なりゆきシナリオ	【人口】 ・復興の目標人口となる4000人超で安定推移。 【産業】 ・従前の原子力産業は除外し2010年の産業構造を維持。 ・1人あたり年率1%の経済成長を想定。 ※「（３）基本事項の設定（人口・産業）」参照	・ゼロカーボンシナリオと比較するためのシナリオ。 ・省エネ技術の進展や再生可能エネルギーの導入が進まないシナリオ。
B 国目標シナリオ		・国の目標と合わせて、**2050年にゼロカーボンを目指す。** ・森林吸収源で相殺可能な1万トン程度までCO2排出量を削減する。 ・施策や技術進展等により、機器効率の改善や燃料シフトがおこると設定。 ・貨物輸送、産業部門、暖房需要（プロパンガス）において化石燃料の使用が一部残るという想定。
C 先導シナリオ		・国より先導して、**2040年にゼロカーボンを目指す。** ・**2050年にはマイナス1万トン**※1とし、実排出量も限りなくゼロを目指す。 ・施策や技術進展等により、機器効率の改善や燃料シフトがおこると設定。 ・町内の全領域において化石燃料の使用をゼロとし、グリーン水素を含めて**完全電化**する。
C' 超先導シナリオ（再エネ導入迅速化）		・C（先導シナリオ）と比べて、より迅速に再エネを導入し、**2030年に域内電力100%再エネを達成し、さらに外部供給を目指す。** ・その他の目標・施策はC（先導シナリオ）と同じ

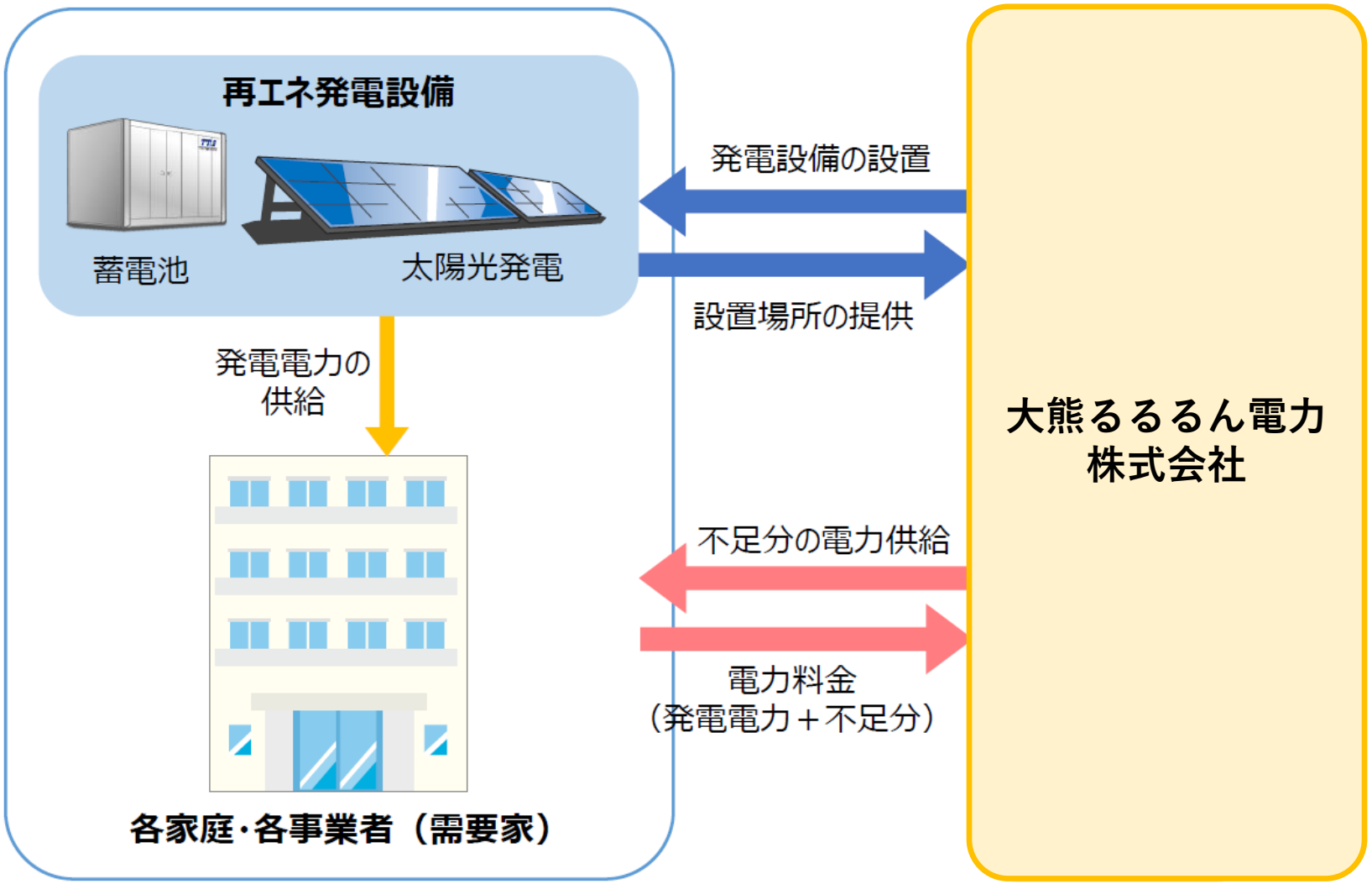
大熊るるるん電力での重点

- 施策や技術進展等により、機器効率の改善や燃料シフトがおこると設定。
- 町内の全領域において化石燃料の使用をゼロとし、グリーン水素を含めて**完全電化**する。

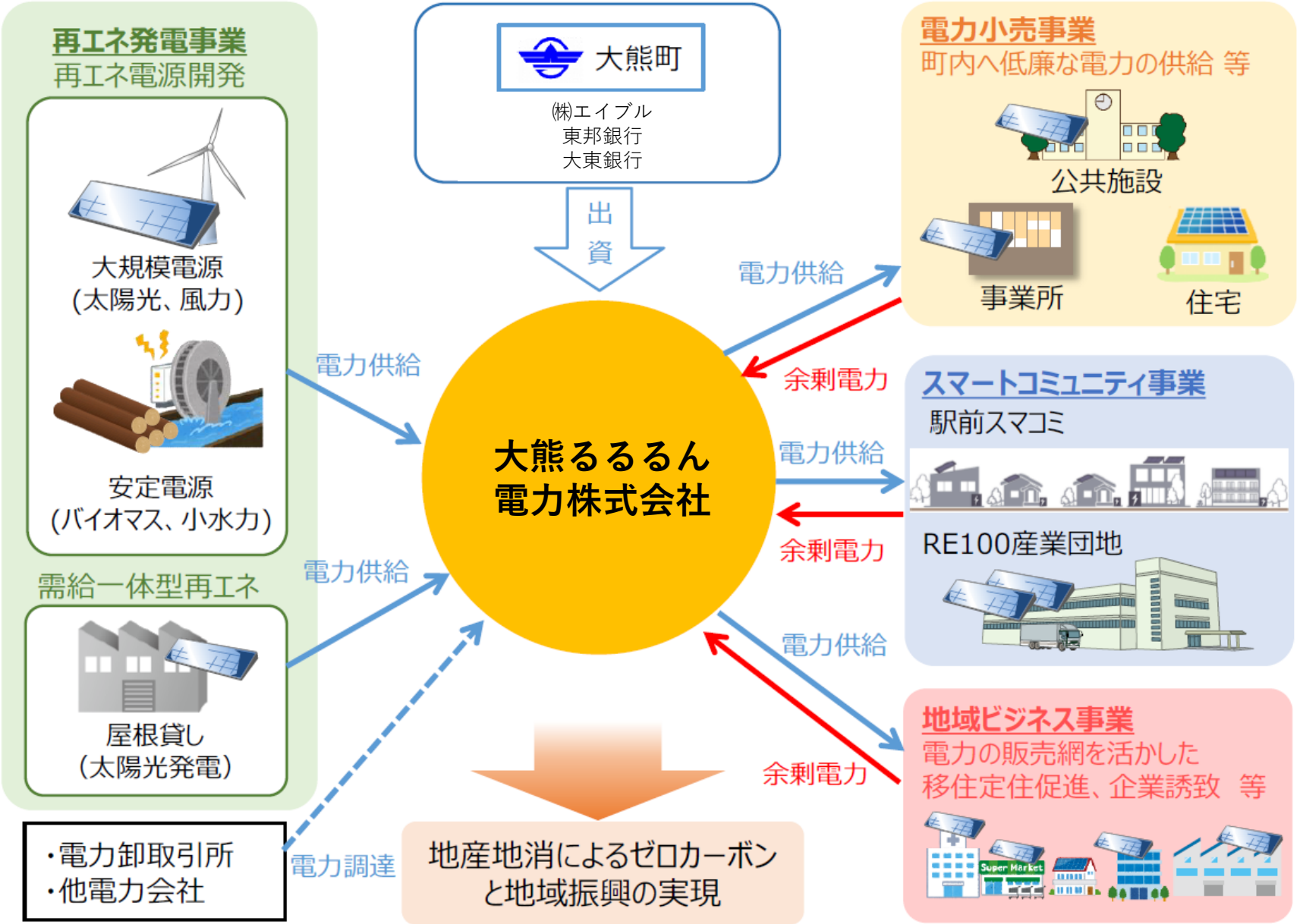
- C（先導シナリオ）と比べて、より迅速に再エネを導入し、**2030年に域内電力100%再エネを達成し、さらに外部供給を目指す。**

PPAモデルによる再エネ発電設備の設置

PPA型サービス：PPA（Power Purchase Agreement）とは、
発電者と電力消費者の間で締結する電力販売契約のこと



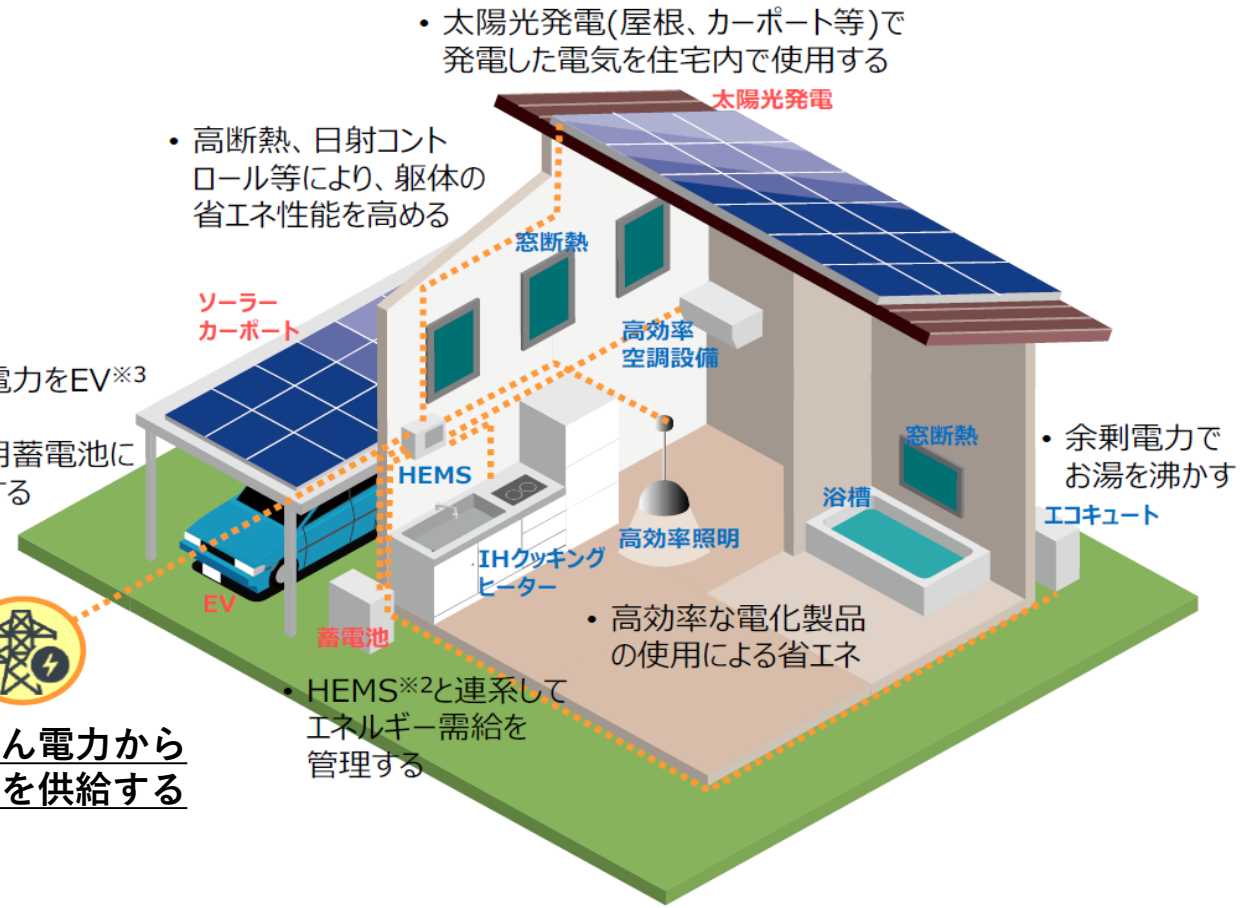
町のゼロカーボンの推進と地域振興への貢献



おおくまゼロカーボン住宅の推進

ZEH（Net Zero Energy House）：
住宅の断熱性能や省エネ性能を向上した上で、再生可能エネルギーをを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロにすることを目指した住宅

＜ZEH・電化イメージ＞

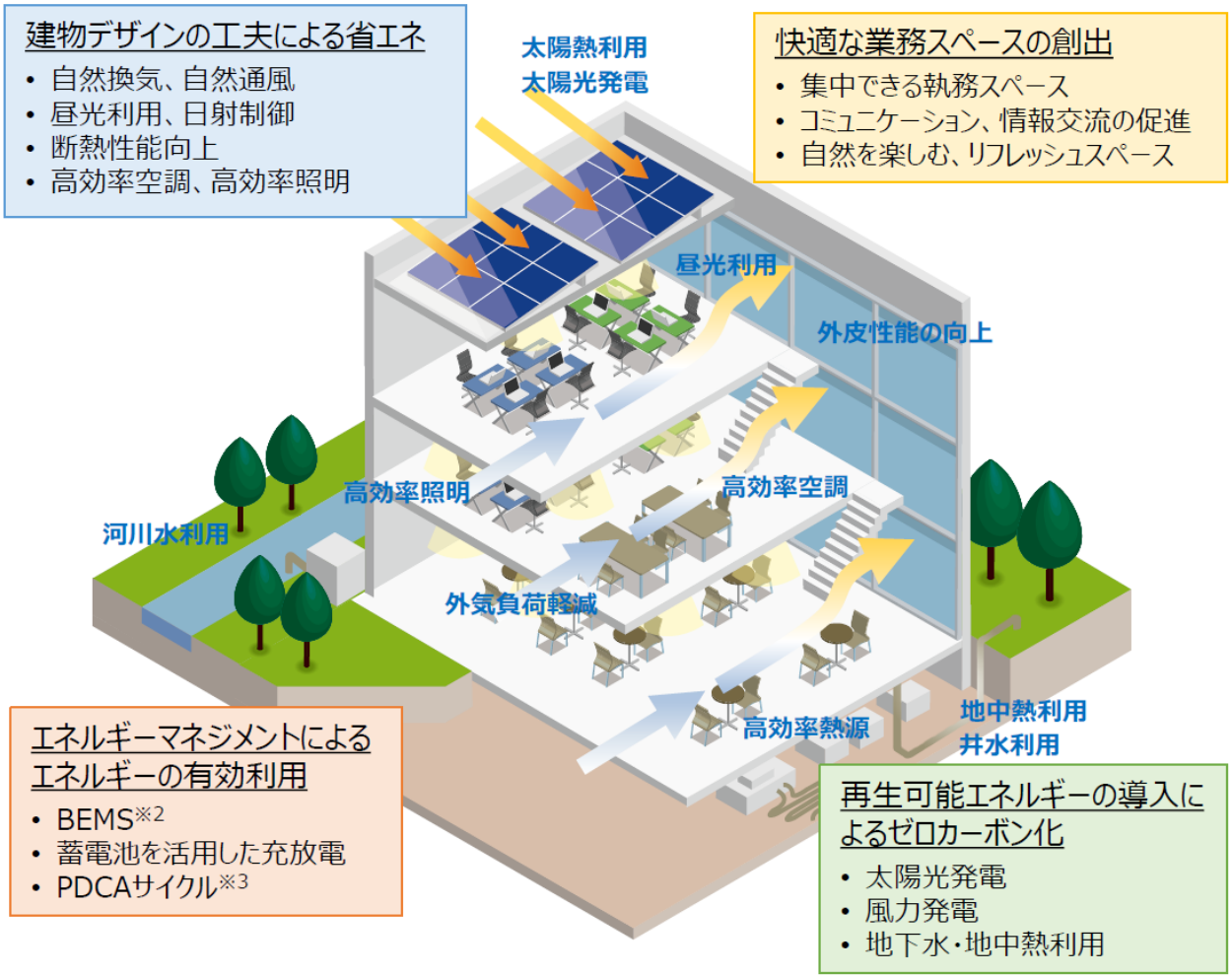


大熊るるるん電力から再エネ電力を供給する

おおくまゼロカーボン建物の推進

ZEB（Net Zero Energy Building）：
快適な屋内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物

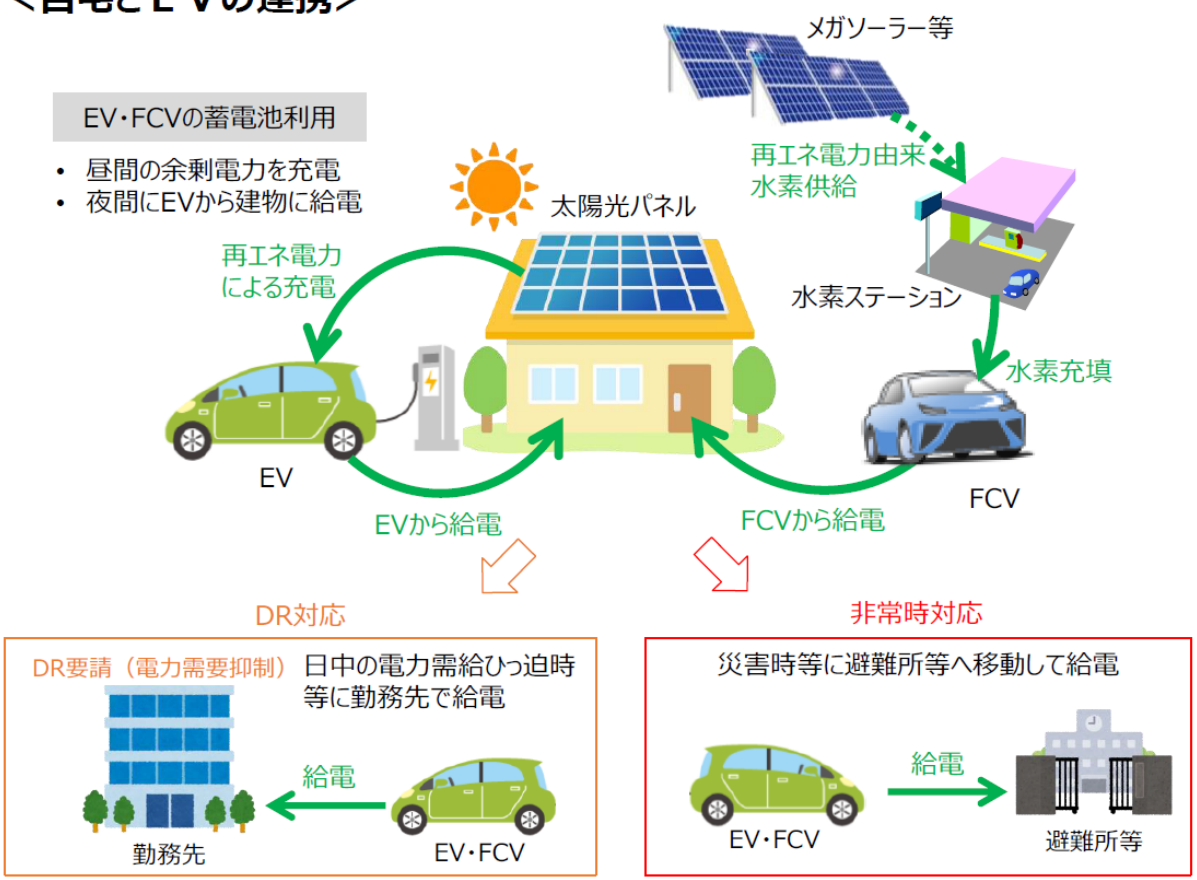
＜ZEBイメージ＞



モビリティのEV・FCV化

DR（Demand Response）：
市場からの電力需要がピークに達したときに、需要側の電気使用量を制御することで、電力の消費パターンを変化させること

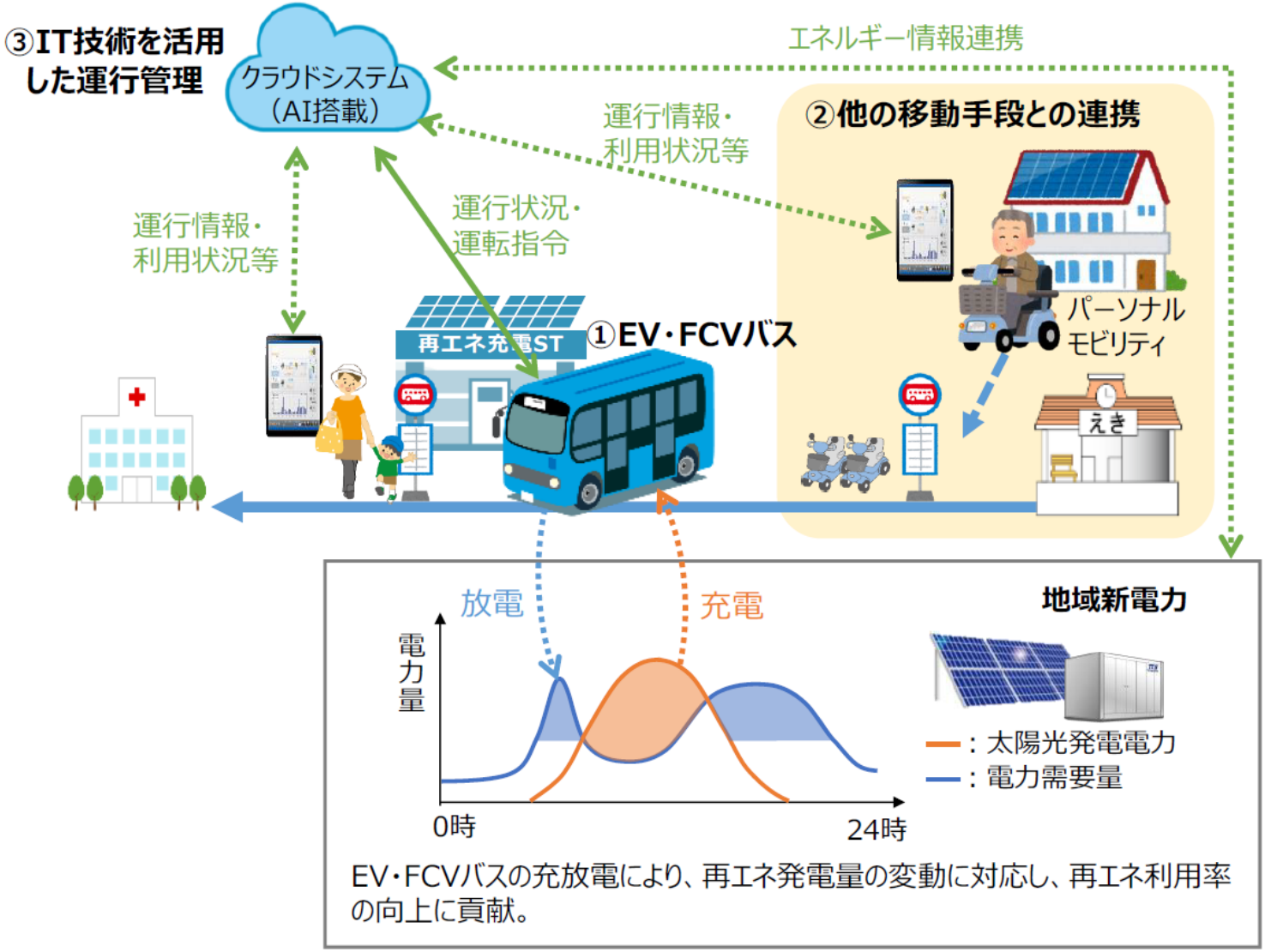
＜自宅とＥＶの連携＞



いざという時の安心と、便利さをＥＶで実現

グリーン交通システムの構築

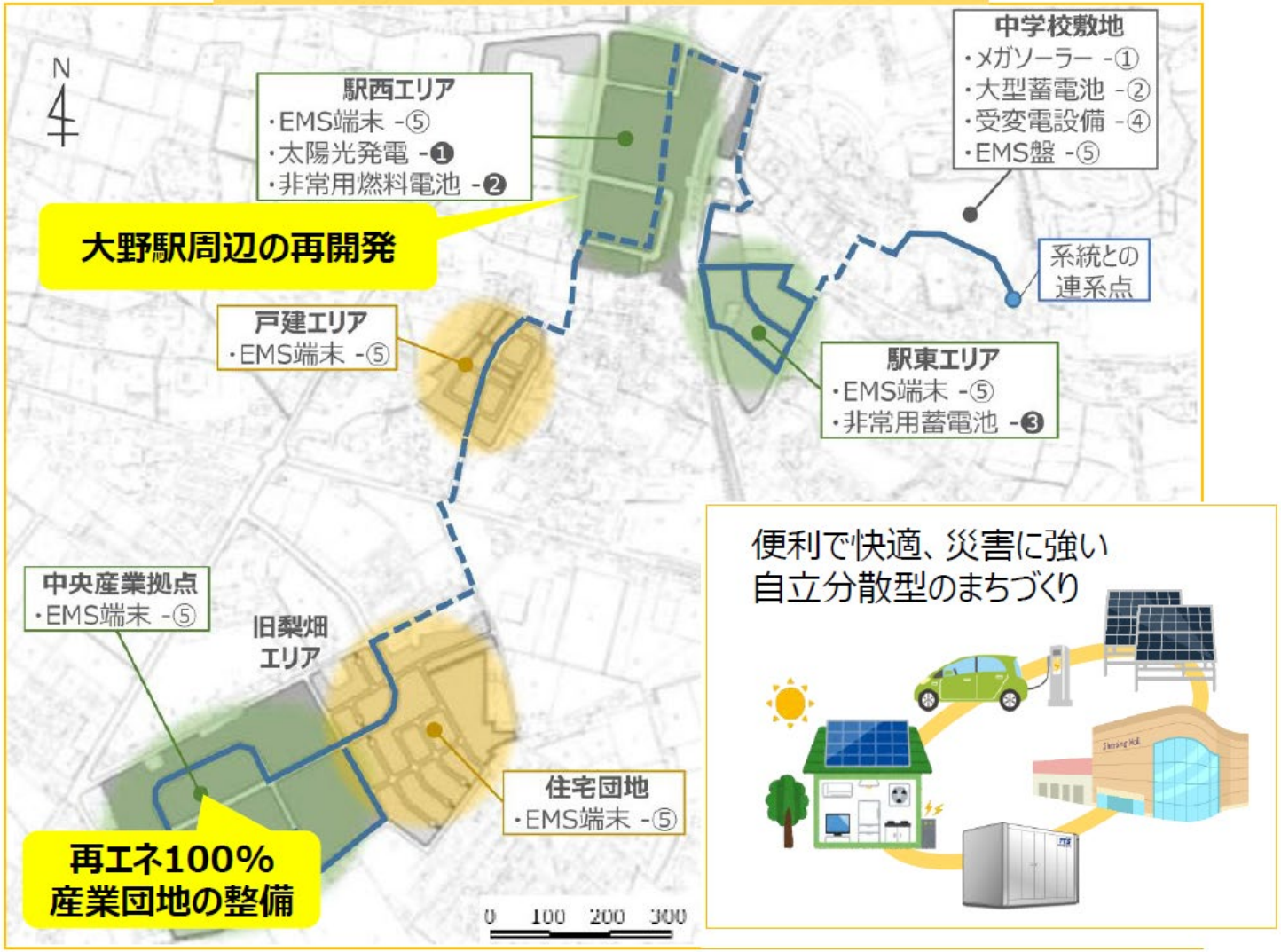
＜グリーン交通システムのイメージ＞　※①～③を段階的に実施



EV・FCVバスの充放電により、再エネ発電量の変動に対応し、再エネ利用率の向上に貢献。

下野上スマートコミュニティ、産業団地の整備

下野上地区スマートコミュニティ構想



観光振興、環境教育、移住・定住促進

観光振興

- 関係人口の増加
- 大熊町で作られた電気の域内外への販売
- ゼロカーボン×原発災害学習のツーリズム教育の展開
- 修学旅行誘致
- 子育て世帯への支援と見守りサービスの展開
- 未来デザインとSDGs教育

ゼロカーボンの推進

- ZEH建設支援

移住・定住促進

- 自然共生・ふるさと教育
- ワーケーションの誘致

環境教育